

永原小学校からの報告

「みずすまし」水生生物調査結果表

調 査 場 所 名 (No.)			山門公民館横 No.1				西浅井支所横 No.2				No.3				
月 日 時 刻			6月11日 10時00分				6月22日 10時00分								
天 気			曇り				晴れ								
水 温 (°C)			18.0 °C				18.0 °C								
気 温 (°C)			24.5 °C				22.0 °C								
川 幅 (m)			5.7 m				9.0 m								
河 川 名			大浦川(上流)				大浦川(下流)								
生 物 を 採 取 し た 場 所			全面				全面								
水 深 (cm)			10.0 cm				20.0 cm								
流 速 (cm / s)			75.0 cm/s				75.0 cm/s								
水 の よ う す		指標生物													
I き れ い	1	カワゲラ類		○											
	2	ナガレトビケラ・ヤマトビケラ クロツツトビケラ類		○				○							
	3	ヒラタケゲロウ類		●											
	4	ブユ類													
	5	ヘビトンボ類													
	6	ガガンボ類		○											
	7	サワガニ						●							
I ・ II 共 通	8	ウスムシ類													
	9	2以外のトビケラ類													
	10	3、14以外のカゲロウ類		●				●							
II 少しよごれている	11	ヒラ外ロムシ類													
	12	シジミ類													
II ・ III 共 通	13	カワニナ						○							
III よごれている	14	サホコカゲロウ													
	15	ヒル類						○							
	16	ミスムシ													
	17	モノアラガイ													
III ・ IV 共 通	18	サカマキガイ													
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ													
	20	イトミミズ類													
	21	ハナアブ類													
水 質 判 定 表	水のようなすの区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	5	1			3	2	2						
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)	2	1			2	1							
	合 計 (1欄+2欄)		7	2			5	3	2						
	判定結果(合計が最も大きい区分)		I				I								

1. 調査について

本学区は、山や琵琶湖に囲まれた、自然豊かな地域です。学区内には「山門水源の森」があり、「山門水源を次の世代に引き継ぐ会」の人たちを中心に、本校や西浅井中学校とともに貴重な動植物の保護活動を行っています。その「山門水源の森」を源流にもつ「大浦川」で、4年生が水生生物調査を行いました。

調査は、今年で8年目を迎えます。昨年度までの結果と比較するために、今年度も同一地点である「山門水源の森」に近い山門公民館横と、下流に位置する西浅井支所横の2カ所で行いました。



6/11 大浦川上流（山門公民館横）



6/22 大浦川下流（西浅井支所横）

2. 調査の様子

①1回目 6/11 大浦川上流（山門公民館横）

この調査をする前に、6月7日のやまのこ学習で草野川の水生生物調査を行いました。川のきれいさを調べるためにはすんでいる水生生物を調べればよいことや、その採取の仕方、見つけやすい場所などを教えていただきました。そして、山に近いほど水がきれいであることに気づきました。大浦川は、「山門水源の森」が源流であり、水源の川の水を使っただけのCODパケットテストでも、水がとてもきれいであることを確認しました。そのため、水源近くの大浦川は同じようにきれいだろう、という予想を立てて調査を行いました。自分たちの身近にある大浦川には、どんな水生生物がいるのか、子どもたちは興味津々の様子でした。

小さな水生生物であるので、初めはなかなか見つけれない様子でしたが、川底の土や石をザルですくって念入りに探していると、いろいろな生物を見つけることができました。



一番多く見つかったのは、ヒラタカゲロウやヨシノマダラカゲロウなどのカゲロウ類でした。ほかには、カワゲラ類、クロツツビケラ、ガガンボ類、ナベブタムシなども見つかりました。子ども達は、たくさんの水生生物に驚きの声をあげていました。



②2 回目 6/22 大浦川下流（西浅井支所横）

2 回目に調査を行ったのは、前回より琵琶湖に近い支所横です。下流ということで、上流とは違った水生生物が見つかるのではないかと、という予想をたてながら調査を行いました。ここでは、サワガニやヨシノマダラカゲロウ、モンカゲロウなどが多く見つかりました。他には、クロツツビケラ、カワニナ、ヒル、ナベブタムシ、ハグロトンボやサナエトンボ、コオニヤンマなどのトンボの幼虫もありました。魚もたくさん見つかりました。カワヨシノボリやウツセミカジカ、モツゴ、ウキゴリ、アユ、ハス、タナゴなどです。

大浦川での調査も2回目となるため、「この辺にいそうだ。」「たぶんこの下に隠れている。」と、慣れた様子で進んで調査することができました。また、水生生物の名前も覚え、講師の先生に聞かずとも自分で種類分けする子どもの姿も見られました。



～「みずすまし」環境日記から～

同じ川なのに上流と下流で水生生物に違いがあることがわかり、びっくりしました。下流に魚が多いのは、琵琶湖が近いからだと言われ、布施先生に教えていただきました。めずらしい魚も見つかったうれしかったです。



山門水源の近くの川はやっぱりきれいでした。やまのこで見つけたきれいな川にすむ水生生物もたくさん見つかりました。



トンボの幼虫がたくさん見つかりました。それは、田んぼが多いからだと言われ、教えていただきました。自然がたくさんあるから生物がすみやすいのかなと思いました。これからも生物がすみやすいように、自然を大切にしたいです。

下流には、ヒルがいました。はじめてさわって気持ち悪かったです。上流よりもよごれている川にすむ生物が見つかったけど、調査をすると結果は「きれいな川」でした。去年は「少しよごれている川」だったので、きれいになってうれしいです。

3. 調査を終えて

昨年度の結果では上流は「Ⅰきれいな川」、下流は「Ⅱ少し汚れている川」でしたが、今年度はどちらも「Ⅰきれいな川」という結果でした。しかし、下流は「きれいな川」から「汚れている川」にすむ水生生物まで幅広くいたため、上流と下流ではやはり生物に違いがあることがわかりました。大浦川の周辺には田んぼが多くあり、人家の近くでもあることから、そのせいだろうと推測されます。

4年生の子どもたちにとって、自然に親しみながら、自分の手で色々な水生生物を探し、その水生生物から川の水の汚れ具合を知る活動は、大変意義深いものでした。普段目にする魚や貝の他にも、水の中には、様々な生物がすんでいること、その小さな水生生物から、川の水の汚れがわかることは、大きな驚きでした。

また、今年度は夏休みの交流会にも参加させていただき、他の学区の水生生物調査を知ることもできました。きれいな川を保つことが大事であると考え、汚れている川にしか生きられない生物がいること、その生物を餌にしてまた別の生物が生きていけることなども調査を通して学ぶことができました。今回の学びを活かし、今後も地域の川を大事にする心を養っていきたいです。

